

関東甲信越ブロックの取り組み

国立成育医療研究センター

松本公一

東京都立小児総合医療センター

金子 隆、湯坐有希

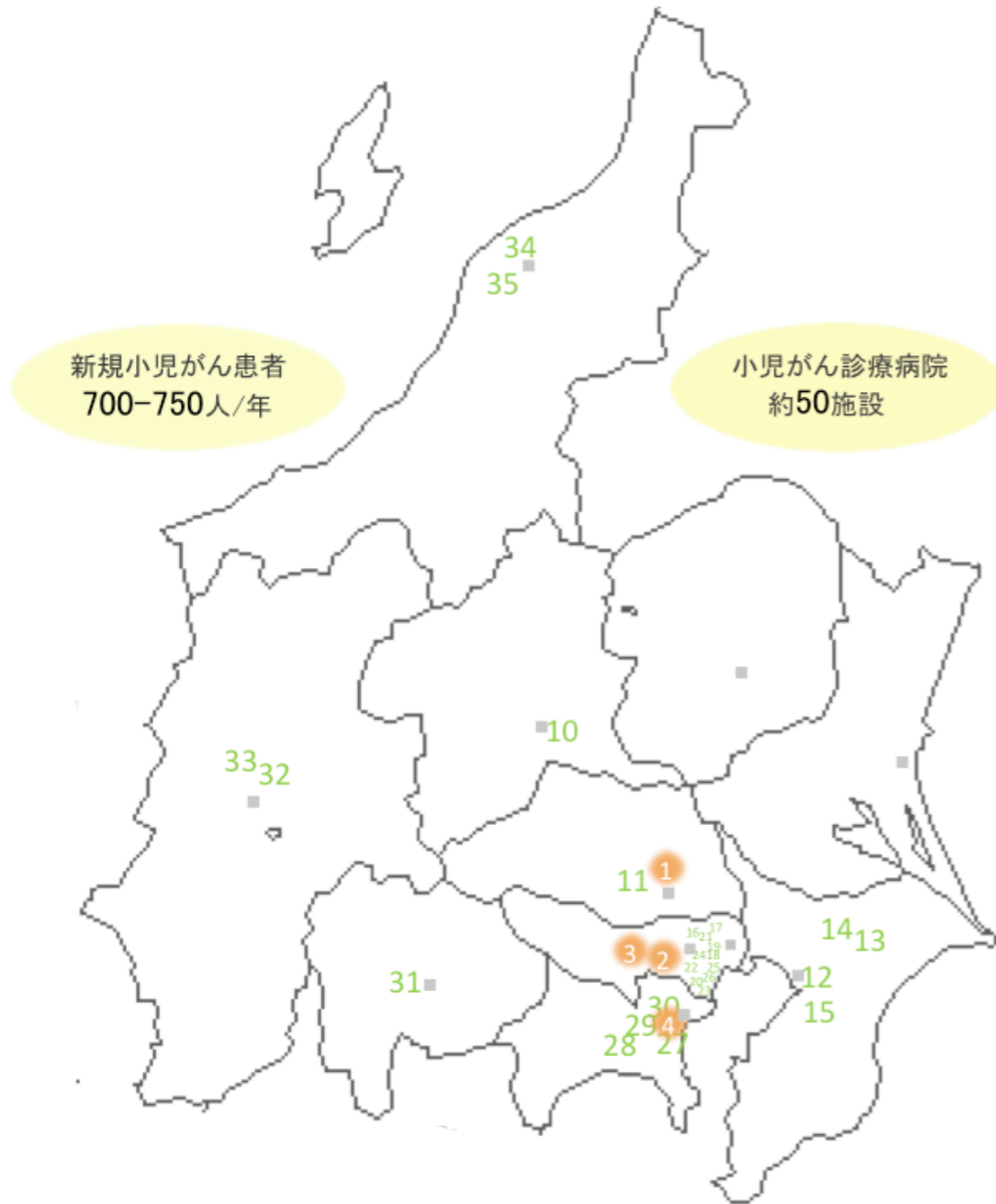
神奈川県立こども医療センター

後藤裕明、長場直子

埼玉県立こども医療センター

康 勝好

関東甲信越ブロック連絡協議会の構成



小児がん拠点病院

1	埼玉県立小児医療センター	埼玉	3	国立成育医療研究センター	東京
2	東京都立小児総合医療センター	東京	4	神奈川県立こども医療センター	神奈川

小児がん診療を担う医療機関

5	茨城県立こども病院	茨城	21	日本医科大学付属病院	東京
6	筑波大学附属病院	茨城	22	慶應義塾大学病院	東京
7	獨協医科大学病院	栃木	23	東邦大学医療センター大森病院	東京
8	自治医科大学附属病院	栃木	24	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京
9	群馬県立小児医療センター	群馬	25	聖路加国際病院	東京
10	群馬大学医学部附属病院	群馬	26	国立がん研究センター中央病院	東京
11	埼玉医科大学国際医療センター	埼玉	27	横浜市立大学附属病院	神奈川
12	千葉大学医学部附属病院	千葉	28	東海大学医学部附属病院	神奈川
13	成田赤十字病院	千葉	29	昭和大学藤が丘病院	神奈川
14	日本医科大学千葉北総病院	千葉	30	聖マリアンナ医科大学病院	神奈川
15	千葉県こども病院	千葉	31	山梨大学医学部附属病院	山梨
16	日本大学医学部附属板橋病院	東京	32	信州大学医学部附属病院	長野
17	帝京大学医学部附属病院	東京	33	長野県立こども病院	長野
18	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京	34	新潟大学医歯学総合病院	新潟
19	東京大学医学部附属病院	東京	35	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟
20	東京慈恵会医科大学附属病院	東京			

日本小児血液・がん学会研修施設を基準として設定

参加施設選択基準：日本小児血液・がん学会研修施設＋疾患によって必要な施設

診療実績

病院名：国立成育医療研究センター

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	28件	38件	24件
ALL	4件	14件	9件
AML	4件	5件	4件
CML	0件	0件	0件
まれな白血病	0件	0件	3件
MDS/MPO	0件	2件	1件
非ホジキンリンパ腫	6件	6件	0件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	0件
組織球症 HLH	7件	1件	0件
組織球症 LCH	3件	7件	5件
その他の組織球症	2件	2件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	2件
ダウン症TAM登録	2件	1件	0件
固形腫瘍	55件	62件	53件
神経芽腫瘍群	2件	7件	7件
網膜芽腫	17件	10件	7件
腎腫瘍	0件	3件	1件
肝腫瘍	3件	5件	7件
骨腫瘍	3件	0件	1件
軟部腫瘍	3件	1件	3件
胚細胞腫瘍	2件	6件	2件
脳・脊髄腫瘍	24件	30件	23件
その他	1件	4件	2件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	223人	369人	618人
小児がん入院在院延べ日数	8,471日	10,614日	12,921日
全入院患者延べ数	11,778人	12,902人	13,546人
全入院患者入院在院延べ日数	134,871日	143,583日	146,797日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	91人	83人	69人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	58件	62件	56件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	97人	7人	20人
小児がん患者を紹介した医療機関数	70件	7件	15件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	12件	16件	19件
相談支援センター相談件数	238件	647件	1,112件
セカンドオピニオン小児がん患者数	25件	29件	43件
再発患者数			
造血器腫瘍	5人	5人	5人
脳脊髄腫瘍	8人	7人	7人
固形腫瘍	8人	16人	16人

診療実績

病院名：東京都立小児総合医療センター

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	25件	21件	21件
ALL	11件	10件	9件
AML	3件	4件	3件
CML	0件	1件	1件
まれな白血病	0件	1件	2件
MDS/MPO	0件	0件	0件
非ホジキンリンパ腫	2件	5件	2件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性	1件	0件	0件
組織球症 HLH	0件	0件	1件
組織球症 LCH	3件	0件	2件
その他の組織球症	0件	0件	0件
その他の造血器腫瘍	2件	0件	0件
ダウン症TAM登録	3件	0件	1件
固形腫瘍	26件	32件	41件
神経芽腫瘍群	3件	9件	9件
網膜芽腫	2件	0件	0件
腎腫瘍	3件	4件	2件
肝腫瘍	2件	0件	0件
骨腫瘍	0件	0件	0件
軟部腫瘍	4件	4件	4件
胚細胞腫瘍	2件	2件	4件
脳・脊髄腫瘍	10件	11件	19件
その他	0件	2件	3件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	155人	149人	176人
小児がん入院在院延べ日数	11,797日	12,920日	13,240日
全入院患者延べ数	8,304人	8,364人	8,266人
全入院患者入院在院延べ日数	166,476日	164,293日	158,681日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	47人	46人	55人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	38件	37件	42件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	22人	10人	18人
小児がん患者を紹介した医療機関数	16件	9件	16件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	5件	5件	7件
相談支援センター相談件数	111件	711件	992件
セカンドオピニオン小児がん患者数	1件	12件	5件
再発患者数			
造血器腫瘍	2人	8人	7人
脳脊髄腫瘍	1人	2人	7人
固形腫瘍	3人	7人	10人

診療実績

病院名：埼玉県立小児医療センター

	平成 24年	平成 25年	平成 26年
造血器腫瘍	44件	39件	58件
ALL	13件	24件	28件
AML	11件	3件	7件
CML	0件	1件	2件
まれな白血病	0件	0件	1件
MDS/MPD	3件	3件	6件
非ホジキンリンパ腫	5件	3件	2件
ホジキンリンパ腫	1件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	2件
組織球症 HLH	6件	0件	2件
組織球症 LCH	3件	2件	5件
その他の組織球症	0件	0件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM 登録	2件	3件	3件
固形腫瘍	31件	39件	32件
神経芽腫瘍群	4件	3件	8件
網膜芽腫	1件	0件	0件
腎腫瘍	2件	1件	2件
肝腫瘍	1件	5件	2件
骨腫瘍	2件	1件	0件
軟部腫瘍	1件	1件	0件
胚細胞腫瘍	4件	4件	3件
脳・脊髄腫瘍	14件	22件	17件
その他	2件	2件	0件

	平成 24年	平成 25年	平成 26年
入院実績			
小児がん入院患者延べ数	687人	748人	1,185人
小児がん入院在院延べ日数	12,819日	13,730日	19,650日
全入院患者延べ数	5,162人	5,734人	5,975人
全入院患者入院在院延べ日数	73,874日	76,873日	82,859日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	73人	75人	75人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	41件	51件	46件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	8人	8人	5人
小児がん患者を紹介した医療機関数	8件	8件	5件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	32件	80件	73件
相談支援センター相談件数	49件	271件	1,616件
セカントオピニオン小児がん患者数	8件	6件	5件
再発患者数			
造血器腫瘍	4人	4人	8人
脳脊髄腫瘍	2人	3人	2人
固形腫瘍	3人	3人	2人

患者数の増加：血液腫瘍科の一日平均入院患者数の推移： H25年度：38人、H26年度：46人、H27年度：52人

患者増加の要因： 血液内科との連携による高校生患者の増加、

県立がんセンターとの連携による骨肉腫治療の開始

患者希望による転院の増加

再発・難治例の増加(造血細胞移植数の急増：H27は40件以上)

診療実績

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	35件	28件	29件
ALL	14件	7件	12件
AML	9件	11件	3件
CML	0件	1件	2件
まれな白血病	0件	1件	0件
MDS/MPO	1件	0件	0件
非ホジキンリンパ腫	3件	2件	3件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	0件
組織球症 HLH	1件	2件	2件
組織球症 LCH	5件	3件	4件
その他の組織球症	0件	0件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM登録	2件	1件	3件
固形腫瘍	24件	40件	29件
神経芽腫瘍群	2件	6件	6件
網膜芽腫	0件	6件	0件
腎腫瘍	3件	3件	1件
肝腫瘍	3件	2件	4件
骨腫瘍	1件	2件	2件
軟部腫瘍	3件	3件	3件
胚細胞腫瘍	0件	2件	0件
脳・脊髄腫瘍	11件	15件	9件
その他	1件	1件	4件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	640人	750人	694人
小児がん入院在院延べ日数	11,829日	14,442日	11,352日
全入院患者延べ数	7,256人	7,361人	6,592人
全入院患者入院在院延べ日数	126,646日	128,968日	74,106日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	69人	81人	146人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	33件	29件	111件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	26人	21人	141人
小児がん患者を紹介した医療機関数	31件	25件	90件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	3件	7件	10件
相談支援センター相談件数	-	617件	882件
セカンドオピニオン小児がん患者数	10件	15件	18件
再発患者数			
造血器腫瘍	-	4人	4人
脳脊髄腫瘍	-	8人	6人
固形腫瘍	-	7人	4人

他施設からの紹介患者や相談
件数は増加傾向
患者数は横ばい

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

1) 多職種カンファレンス

成育

①子どもサポートチームカンファレンス（週1回）

構成員：小児がんセンター医師、こころの診療部医師、麻酔科医師、歯科医師、看護師、臨床心理士、ほか検討対象の診療に対応する部門の関係者など

②造血細胞移植カンファレンス（月1-2回開催）

構成員：小児がんセンター医師、緩和ケア認定看護師、病棟看護師、薬剤師、保育士、レジデント等参加

都立

①移植・緩和医療カンファレンス（週1回開催）

構成員：血液・腫瘍科医、精神科医、緩和ケア認定看護師、病棟看護師、臨床心理士、MSW、OT、栄養科職員、薬剤師、学校教員、保育士、レジデント等参加

②緩和ケアサポートチーム会議（月1回開催）

構成員：血液・腫瘍科医、精神科医、集中治療科医等関連各科医師、緩和ケア認定看護師、関係病棟看護師、臨床心理士、MSW、薬剤師、事務職員等参加

神奈川

①緩和ケア普及室カンファレンス(週1回) 適宜ラウンド実施

構成員：麻酔科医師、小児がん医師、児童思春期精神科医師、
総合診療科医師、専門・認定看護師、臨床心理士、薬剤師、社会福祉士

②小児がん栄養チーム(月1回) 小児がん栄養サロン(年3回)

構成員：医師（血液再生医療科、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム）、歯科医師・衛生士、専門看護師・病棟看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師

埼玉

①多職種カンファレンス（週1回）

治療状況、心理社会情報の共有や課題確認を行っている。

構成員：血液腫瘍科医師、小児がん担当病棟看護師長、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、CL S、ソーシャルワーカー

②移植前カンファレンス（月2～3回・不定期開催）

疾患・治療スケジュールの共有を行い、移植中の具体的ケアや各職種の役割分担の確認を行っている。

構成員：血液腫瘍科医師、看護師、理学療法士、保育士、CL S、栄養士、特別支援学校教員

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

2) 緩和ケアの整備

成育

子どもサポートチームを中心として、緩和ケアの提供を行っている。

構成員：小児がんセンター医師、こころの診療部医師、麻酔科医師、歯科医師、看護師、臨床心理士、ほか検討対象の診療に対応する部門の関係者など

緩和ケアの対象となった入院患者数：29件/年

外来での算定： 1件（神経芽腫）

入院での算定： 0件（小児入院管理料に包括）

都立

緩和ケアサポートチーム（チームカモミール）を中心として、緩和ケアの提供を行っている。

構成員：血液・腫瘍科医、精神科医（リエゾン担当）、集中治療科医等関連各科医、緩和ケア認定看護師、関連病棟看護師、臨床心理士、MSW、薬剤師等

緩和ケアの対象となった入院患者数：44件/年（ただし非がんを含む）

外来での算定： 0件

入院での算定： 14件（他は小児入院管理料に包括）

神奈川

緩和ケアの対象となった入院患者数 23件/年（27年度12月まで）

外来での算定者：0件

入院での算定者：1件（白血病等の15歳以上の患者（25年度3人、26年度3人））

課題：院内外への周知不足

埼玉

週1回、病棟回診を行い、身体的・精神的痛みに対する専門知識、技術を提供している。

加えて、月1回、在宅支援チームと合同の病棟回診および合同カンファレンスを実施し、個別症例について検討を行っている。

構成員：医師(血液・腫瘍科、外科、麻酔科、精神科)、看護師、薬剤師、臨床心理士、CLS、ソーシャルワーカー、理学療法士

緩和ケアの対象となった新患者数：73件/年 認定看護師を養成中

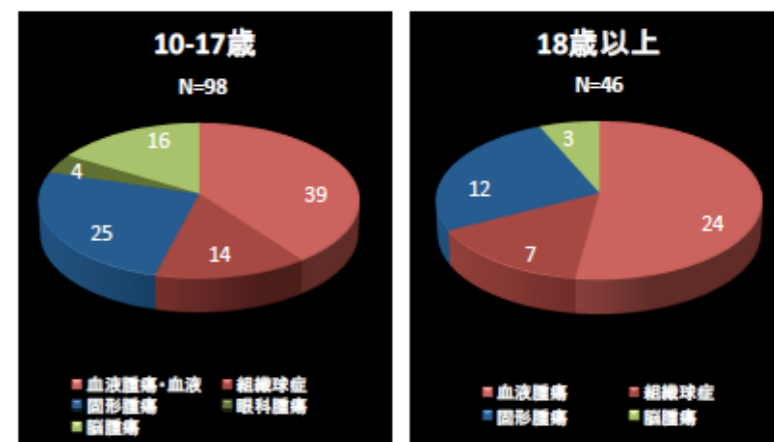
集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

3) 長期フォローアップ外来

2014.12-2015.11 の1年間に当院外来を受診した10歳以上の例を解析

成育

火曜日午後を中心として、長期フォローアップ外来を開設。トランジションプログラム、晩期合併症教育ツールを作成して診療を行っている。
 専任医師：1名
 外来患者数：10-17歳 98名
 18歳以上 46名



都立

①脳腫瘍長期フォローアップ外来
 毎月第一火曜日を脳腫瘍長期フォローアップ外来として、長期フォローアップに入った脳腫瘍患者の利便性を考慮した外来として開設。一日で患者がフォローとして必要な各科を回れるようにコーディネートして受診。必要時には終了後に関係各科、外来看護師で話し合いを持つ。

②移行看護外来
 25年6月から血液・腫瘍科、内分泌代謝科、腎臓内科患者を対象に移行看護外来開設。自立、自律支援を主体とした移行プログラムを開始した。27年9月に併設されている成人医療機関「東京都立多摩総合医療センター」との間に「移行医療委員会」設立

神奈川

①造血器移植後患者フォローアップ外来 (27年6月～12月末11件)
 ②小児がん経験者内分泌外来 (27年度 12月まで12件)
 課題：現在の外来は主に家族への指導・相談の要素が大
 今後は患者も含めた移行外来の開設を検討

埼玉

「造血細胞移植後長期フォローアップ外来」：
 平成27年1月より第2、4火曜日に開設。
 外来担当医師3名、看護師2名、薬剤師でチーム医療をしている。

疾患	ALL(10)、AML(5)、NB(1)、AA(1)、MDS(1)、CMML(1)、免疫疾患・その他(3)		
移植ソース	CBT(11)、R-BMT(7)、R-PBSCT(3)、U-BMT(1)		
年齢	平均：8.6歳 (0.11～20.7歳)		
移植後期間	平均：2.0年 (0.3～14.0年)	面談時間	平均：43分 (25分～90分)
主な内容	GVHD評価、スキンケア、復学・復園など、低身長、発達、運動のすすめ方、食事、体重増加不良、二次性徴、妊孕性 など		

事業実績報告

病院名：国立成育医療研究センター

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 1310万円

・小児がん医療従事者研修事業 5.1万円

(事業内容) 地域の医療従事者を対象とした緩和ケアレクチャー(3回)

小児がんの子どもと栄養、小児がんの在宅緩和ケア、グリーンケア(各回80名の参加)

(支出内訳): 文房具、切手代 5.1万円

・院内がん登録促進事業 4.5万円

(事業内容) 院内がん登録 61件

(支出内訳): 図書、ソフトウェア等 4.5万円

・がん相談支援事業 533.9万円

(事業内容) 電話相談含め296件に対応。関東甲信越協議会は2回開催した。

(支出内訳) 医療社会事業専門員(非常勤2名)給料等 418万円

小児がん緩和ケアチームカンファレンス参加旅費等 16.8万円

関東甲信越協議会開催費 40.3万円

相談支援業務支援システム 57.2万円

・プレイルーム運営事業 767万円

(事業内容) CLSを配置。

(支出内訳) チャイルドライフスペシャリスト(常勤1名)給料等 734万円

図書購入、ソファ購入等 32.9万円

・入院患者家族支援事業 0万円

事業実績報告

病院名：都立小児総合医療センター

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 1404万円

・小児がん医療従事者研修事業 0万円（自己財源により実施）

（事業内容）緩和ケアサポートチーム勉強会、医療連携講演会（病診連携）、小児がん勉強会、小児がんの概要等（4回。看護専門学生向け）、発熱性好中球減少症についての研修、小児がんの概要等についての研修（2回）

（支出内訳）：なし

・院内がん登録促進事業 232.6万円

（事業内容）院内がん登録 47件

（支出内訳）：病院事務専門員給料等 232.6万円

・がん相談支援事業 820.7万円

（事業内容）電話相談含め992件に対応。

（支出内訳）ソーシャルワーカー（3名）給料等 820.7万円

心理士給料等 462.2万円

医師給料等 69.6万円

・プレイルーム運営事業 351.2万円

（事業内容）病棟内保育担当の保育士をプレイルームに配置

（支出内訳）保育士給料等 351.2万円

・入院患者家族支援事業 0万円（自己財源により実施）

（事業内容）マクドナルドハウスとの連携、図書購入

（支出内訳）なし

事業実績報告平成 26年度

病院名：神奈川県立こども医療センター

事業名	金額 2,072万円	内容
小児がん医療従事者研修事業	60万円 講師謝金、通信費、研修参加費、事務費	小児緩和セミナー、緩和ケア学習会、看護部門人材交流研修、小児がん相談支援セミナー 参加者：398人
院内がん登録促進事業	299万円 登録事務人件費、研修費、PCソフト	院内がん登録74件
がん相談支援事業	476万円 相談員給与、研修旅費、会議費、事務用品、広報費、図書費	相談件数1107件(電話含む) がん相談支援研修参加 相談業務ホームページの作成 案内用パンフレット作成
プレイルーム運営事業	1,447万円 病棟保育士人件費	各病棟のプレイルームに配置
入院患者家族支援事業	0円	整備済み
(病院自己負担金)	(210万円)	(総合計2,282万円)

事業実績報告

病院名：埼玉県立小児医療センター

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 1,973.2万円

- ・小児がん医療従事者研修事業 37.0万円
事業内容 … 緩和ケアチーム研修、小児がん看護研修会、(小児がん患者と家族への緩和ケア、小児がん経験者の晩期合併症と長期フォローアップ、小児がん患者の終末期ケア)の開催等
支出内訳 … 講師料、旅費
- ・院内がん登録促進事業 14.4万円
事業内容 … 院内がん登録準備
支出内訳 … 登録用パソコン購入
- ・がん相談支援事業 173.1万円
事業内訳 … 電話相談含め、495件に対応
支出内訳 … MSW(非常勤)1名給与 166.9万円、パンフレットスタンド購入 6.2万円
- ・プレイルーム運営事業 1,646.4万円
事業内容 … 保育士4名配置(小児がん病棟2病棟 各2名)
支出内訳 … 業務委託料
- ・入院患者家族支援事業 102.3万円
事業内容 … 入院患者家族用宿泊施設の借り上げ
支出内訳 … アパート2室賃料、火災保険料

関東甲信越小児がん拠点病院 事業支出内訳

(千円)

	成育	都立	神奈川	埼玉
小児がん医療従事者研修事業	51	0	600	370
院内がん登録促進事業	45	2,326	2,990	144
がん相談支援事業	5,539	8,207	4,760	1,731
プレイルーム運営事業	7,670	3,512	14,470	16,464
入院患者支援事業	0	0	0	1,023
計	13,100	14,040	20,720	19,732

参考

「感染症予防事業費等国庫負担(補助)金交付要綱」

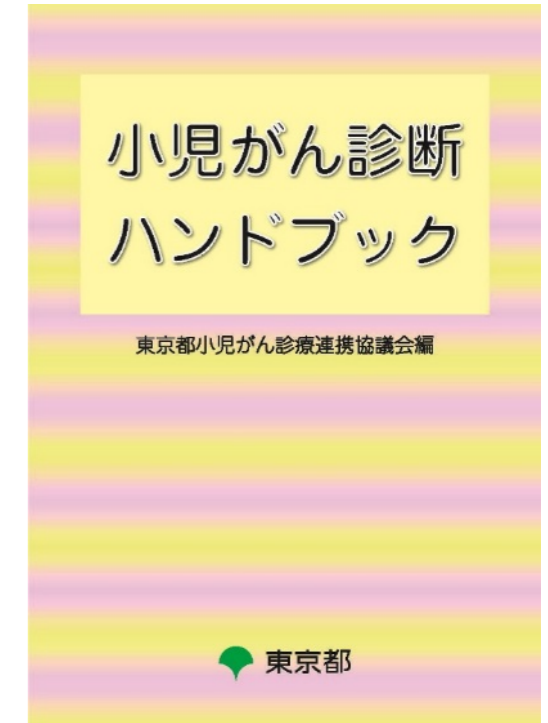
小児がん拠点病院機能強化事業費	厚生労働大臣が必要と認めた額	小児がん拠点病院機能強化事業に必要な報酬、給料、職員諸手当(通勤手当、期末・勤勉手当、時間外勤務手当)、共済費、会議費、賃金、報償費、旅費(国内旅費)、需用費(図書購入費、消耗品費、印刷製本費)、役務費(通信運搬費、保守料、広告料)、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費 ただし、給料、職員諸手当(通勤手当、期末・勤勉手当、時間外勤務手当)及び共済費については、院内がん登録促進事業、がん相談支援事業及びプレイルーム運営事業に限る。	10/10
小児がん中央機関機能強化事業費	厚生労働大臣が必要と認めた額	小児がん中央機関機能強化事業に必要な報酬、給料、職員諸手当(通勤手当、期末・勤勉手当、時間外勤務手当)、共済費、会議費、賃金、報償費、旅費(国内旅費)、需用費(図書購入費、消耗品費、印刷製本費)、役務費(通信運搬費、保守料、広告料)、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費 ただし、給料、職員諸手当(通勤手当、期末・勤勉手当、時間外勤務手当)及び共済費については、普及啓発・情報提供事業及び小児がん医療の診断支援事業に限る。	10/10

地域ブロック協議会整備の進捗状況

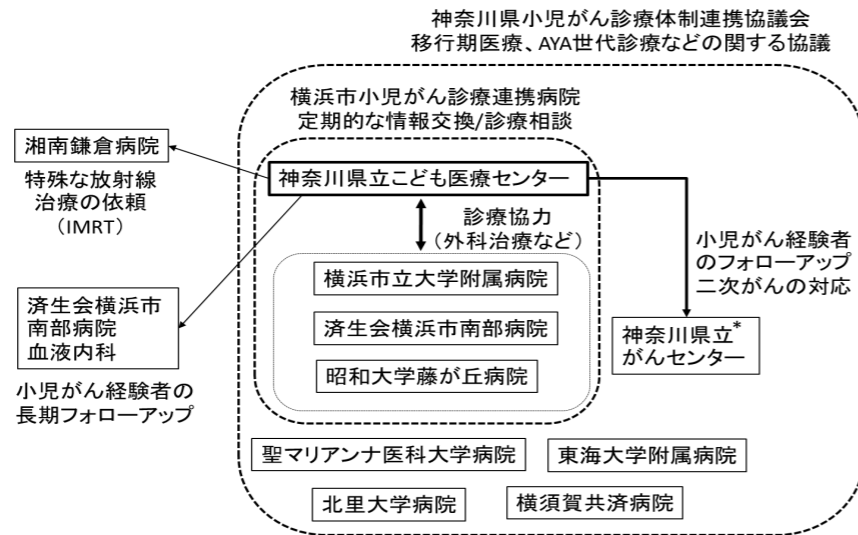
1) 地域ブロック協議会

成育
都立

東京都小児がん診療連携協議会
 都内小児がん拠点病院2施設、小児がん診療病院11施設、東京都医師会、がんの子供を守る会にて構成
 (当センターは事務局)。
 小児がん診断ハンドブック作成、ハンドブックを用いた研修会を開催し、小児がん診療の底上げを実施。
 小児がん普及啓発活動として市民公開講座を開催(年1回)



神奈川



埼玉

埼玉県小児がん診療病院連携協議会
 埼玉県内の小児がん患者の治療を中心的に担う施設を委員、診療連携が可能な施設をオブザーバーとし、年1回協議会を開催している。
 今年度は相談支援担当者の連絡会も開催予定している。
 <参加施設> 埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、防衛医科大学病院、獨協医科大学越谷病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、埼玉県立がんセンター

2) 人材育成

回数	対象	内容
年2回	医療者(院内中心)	小児がんセミナー
年3回	医療関係者(院内外)	小児緩和セミナー
年2回	看護師(関東甲信越ブロック)	小児がん看護研修
年1回	小児がん支援者(院外)・教員 や就労支援者中心)	小児がん相談支援セミナー
年2回	患者・家族(院内)	血液・再生医療科家族教室
年3回	患者・家族(院内)	小児がん栄養サロン
年1回	患者(がん経験者)・院内外)	小児がん経験者の会
年数回	家族(院内)	小児がん家族サロン
年1回	一般市民	小児がん市民公開講座

2) 人材育成 地域ブロック協議会整備の進捗状況

成育

緩和ケアレクチャーシリーズの開催（対象：医師、看護師、検査技師、薬剤師等）

- ①2014.8.27 小児がん患者の栄養に対する神奈川県立こども病院の取り組み
- ②2014.11.19 小児の在宅緩和ケア
- ③2015.3.18 子どもと保護者のグリーフケアを考える
- ④2015.7.23 笑いの力～ホスピタル・クラウンの現場から～
- ⑤2015.11.20 アート・デザインによる医療環境の支援

成育臨床懇話会（対象：医師、看護師、検査技師、薬剤師等）

2015.7.25, 2016.2.27 小児がん医療における地域連携 ～早期発見と後方連携について～

都立

緩和ケアサポートチーム勉強会の開催（対象：医師、看護師、検査技師、薬剤師等）

- ①2014.2.4 子どもたちのための緩和ケア
- ②2014.12.22 スピリチュアルケア
- ③2015.7.16 家族ケア

医療連携講演会（病診連携）（対象：主に医師等）

- ①2013.11.13 小児がん拠点病院に指定された当センターの提供する小児がん診療、小児がん患者の初期症状に関する検討について
- ②2015.2.4 小児がんの初期症状

小児がん勉強会（対象：医師、看護師、検査技師、薬剤師等）

- ①2014.8.5 小児がん拠点病院としての当センターの役割、小児がん患者の看護について
- ②2015.11.2 日本の小児がん医療と当センターの役割

看護アカデミー参加者、看護専門学校生対象研修

- ①2013.7.11 日本における小児がんの概要、がん治療の概要（対象：看護アカデミー）
- ②2013.1.10,1.31,5.9,5.30,6.20,9.5,9.26 日本における小児がんの概要、がん治療の概要（対象：看護専門学校生）
- ③2014.5.29,6.19,9.14,12.4 日本における小児がんの概要、がん治療の概要（対象：看護専門学校生）
- ④2015.5.28,6.18,9.3,9.24,12.3 日本における小児がんの概要、がん治療の概要（対象：看護専門学校生）

その他

- ①2014.11.6 小児がんの概要、小児がん治療、晩期合併症等治療関連合併症と長期フォローアップについて（対象：東京看護協会会員）
- ②2015 小児がんハンドブックを用いた研修会（東京都小児がん診療連携協議会事業）

1.16（慶應義塾大学病院）、2.6（杏林大学医学部附属病院）、2.7（東京慈恵会医科大学附属病院）、2.11（聖路加国際病院）、2.21（東京大学医学部附属病院）、2.24（独立行政法人国立がん研究センター中央病院）、2.26（日本大学医学部附属板橋病院）、3.12（東邦大学医療センター大森病院・東京女子医科大学病院）、3.28（順天堂大学医学部附属順天堂医院・日本医科大学附属病院）

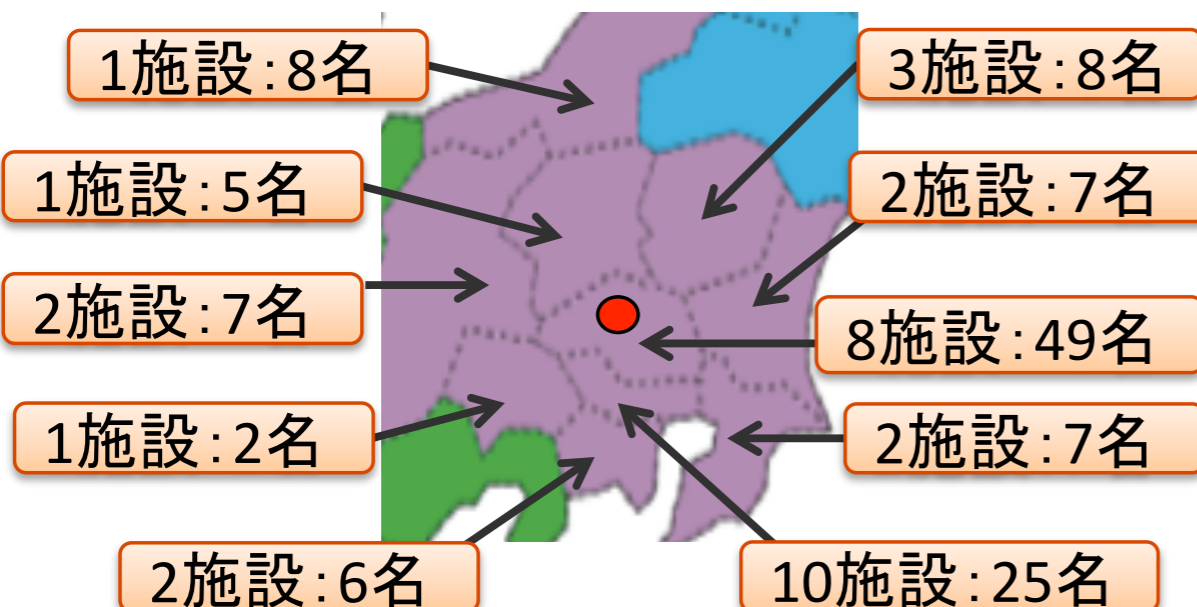
地域ブロック協議会整備の進捗状況

埼玉

平成27年度 小児がん看護専門研修

- 関東甲信越ブロックの小児がん診療連携病院の看護師が研修を共有することで、小児がん看護のレベル向上と均てん化の一助とする。
- 平成27年度は、小児がん看護の基礎的な知識から造血細胞移植看護の専門的内容を含めて3日間で開催した。また、テーマ毎の単科受講も可能とした。
- 場所:さいたま新都心「With You さいたま」

関東甲信越ブロックの32施設より124名参加



	テーマ	受講者数
10月3日(土)	小児がん拠点病院の役割と小児がん医療体制	82
	小児がんの代表的な疾患の病態と治療	86
	治療プロトコールと血液検査データの読み方	88
	小児がん患者の症状マネジメント オンコロジックエマージェンシー	87
10月31日(土)	子どもと家族への支援	62
	小児がんの相談支援 地域連携と社会資源	64
	造血幹細胞移植治療について	75
	造血幹細胞移植を受ける子どもとその家族の看護	69
12月19日(土)	小児がん患者と家族のこころのケア	64
	終末期の小児がん患者と家族への支援	63

地域ブロック協議会整備の進捗状況

2) 診療病院情報の収集と提供



関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 Webサイトにおける情報公開



関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会

関東甲信越地域ブロックは、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野の10都県により構成され、広域となっています。ブロックにおける新規小児がん患者数は、年間約700-750人と推定されており、この数は、国内における新規小児がん患者数の1/3程度に相当しています。

関東甲信越地域ブロックの小児がん拠点病院として、埼玉県立小児医療センター、国立成育医療研究センター、東京都立小児総合医療センター、神奈川県立こども医療センターが指定されています。この拠点病院、地域ブロック全体の小児がん診療を考える際に重要な役割を果たすと考えられる医療機関、及び都県から構成される「関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会」を設置し、小児がん地域計画書を策定しました。この計画書により、小児がん医療の質を向上し、小児がん患者とその家族が、慣れ親しんだ地域に留まり、安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目標としています。

国立成育医療研究センター小児がんセンター内に、関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会事務局を設置して、小児がん診療を担う医療機関の役割の明確化、情報公開、臨床研究の推進、普及啓発の推進などを行います。

関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 参加施設一覧はこちらです。

診療実績(入院数)	2014	2013	2012
小児がん入院患者延べ数	447	369	223
小児がん入院在院延べ日数	9528	10614	8471
全入院患者延べ数	13254	12902	11778
全入院患者入院在院延べ日数	127422	143583	134871

全体の割合 (入院患者延べ数)	3.37	2.86	1.89
(入院患者在院延べ日数)	7.48	7.39	6.28
在院日数 (小児がんセンター)	21.32	28.76	37.99
(病院全体)	9.61	11.13	11.45

診療実績(新規診断治療数)	2014	2013	2010-2012
造血器腫瘍	28	23	87
急性リンパ性白血病	12	8	26
急性骨髄性白血病	5	3	12
リンパ腫	4	5	15
組織球症	3	4	27
その他の造血器腫瘍	4	3	7
脳脊髄腫瘍	39	29	63
固形腫瘍	35	36	92
網膜芽腫・眼腫瘍	1	9	36
神経芽腫群腫瘍	7	9	16
腎腫瘍	4	2	3
肝腫瘍	6	5	12
骨腫瘍	6	1	3
軟部腫瘍	7	7	4
胚細胞腫瘍	4	2	11
その他の固形腫瘍	0	1	7

診療実績(再発・治療抵抗実治療数)	2014	2013	2010-2012
再発造血器腫瘍	6	5	14
再発脳脊髄腫瘍	9	7	23
再発固形腫瘍	6	16	25
死亡患者数	15		

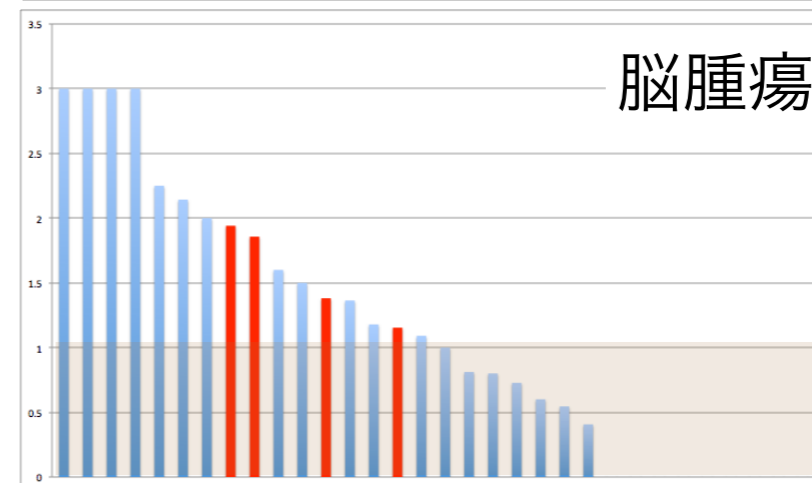
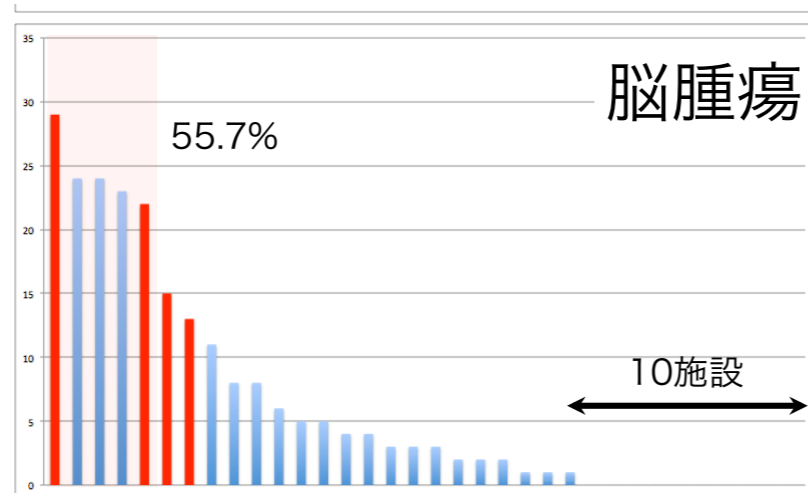
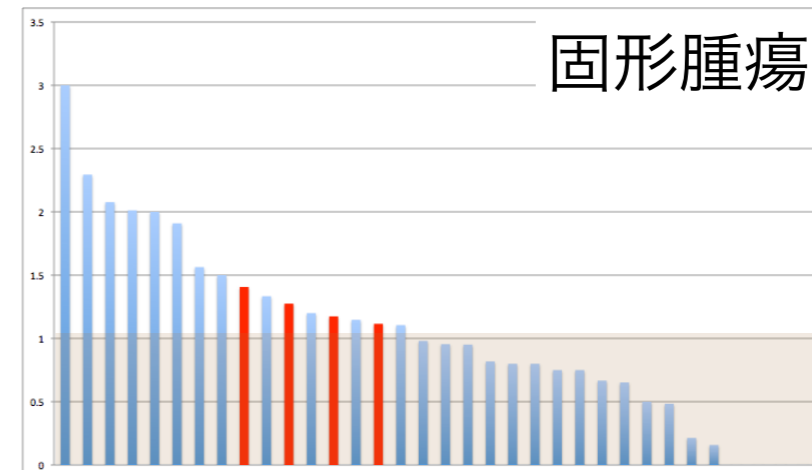
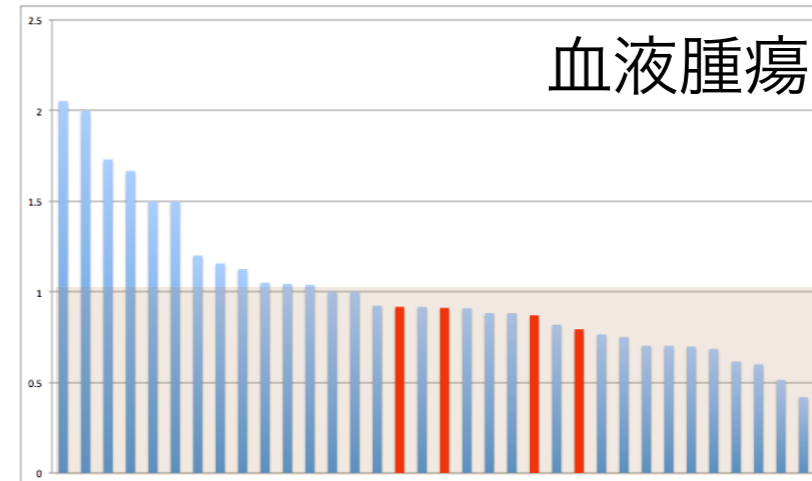
地域ブロック協議会整備の進捗状況

2) 診療病院情報の収集と提供

疾患別に検討した場合、血液悪性腫瘍患者は、関東甲信越全地域で診療が行われており、拠点病院への患者集中傾向はそれほど高くないことが判明した。しかし、固形腫瘍患者、特に脳腫瘍患者は、拠点病院をはじめとする診療病院への患者集中傾向が認められ、このまま集約化に向かうことが予想された。

紹介患者数は、+10から-20%の変化が認められたが、紹介を受けた地区に関して変動はなく、主に近隣地区病院からの紹介が多かった。その反面、逆紹介患者数は100%から286%(中央値178%)と増加しており、地域間の拠点病院と小児がん診療病院間での後方連携が上手くとれていることを反映していると考えられた。

2012/2013 新入院患者比



地域ブロック協議会整備の進捗状況

3) ブロック協議会の下に設置する部会

相談支援部会

日時：2015年2月25日（水）13:30～16:30
場所：東京八重洲ホール ホールB2
内容：1. 小児がん医療体制の整備について
- 医師の立場から 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 松本 公一
- 相談員の立場から 国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター 鈴木 彩
2. 小児がん拠点病院（4施設）からの報告
3. 意見交換会

小児がん患者が支援を
受けられる体制作り

開催日時：2015年11月12日（木）14:00～16:30
開催場所：東京八重洲ホール ホールB2
議 題：（1）第2回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告
国立成育医療研究センター 小児がん相談支援センター 鈴木 彩
（2）小児がん患者とその家族に起こりうる問題とその支援について
神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室 竹之内 直子
（3）小児がん患者のための社会資源（経済的支援）
埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター 篠崎 咲子
（4）小児がん患者家族への情報提供～東京都の取り組み～
東京都立小児総合医療センター 子ども家族支援部門 間宮 規子
（5）その他（意見交換）

脳腫瘍部会

- ・ 関東甲信越地域における小児脳腫瘍診療担当者間のコミュニケーション促進と診療連携の充実を目的に、「脳神経腫瘍部会」を設置
- ・ 参加施設の小児腫瘍科医や脳神経外科医等を対象に、情報交換のためのメーリングリストを開設。実際の症例を検討するための多施設テレカンファレンス等の開催などを予定。